



2019年版
第7回

「住みたい田舎」 ベストランキング!

栃木県

宝島社
『田舎暮らしの本』
2019年2月号

とちぎし 栃木市

大きなまち

子育て世代が住みたい田舎部門	1位
若者世代が住みたい田舎部門	2位
シニア世代が住みたい田舎部門	3位
自然の恵み部門	6位
総合部門	2位

空き家バンク成約数が多い自治体 1位

「旬の移住地」をランキング形式で紹介する「住みたい田舎」ベストランキング。第7回は、全220項目のアンケートに663の自治体が回答。人口10万人未満の「小さなまち」と人口10万人以上の「大きなまち」に分けてランキングしています。栃木市は、「大きなまち」の4部門でベスト3にランクインしました。





↑大川市長を囲んで、市の住宅課定住促進係の皆さん。その名の通り、定住に必要な住まい、仕事、子育てなどの支援に全力を傾けている。

江戸時代に宿場町として栄え、昔の蔵や商家が数多く残っている小江戸・栃木市。どちらかといえばシニア受けしそうな風情のまちだが、「2年前に『田舎暮らしの本』で子育て世代が住みたい田舎の第1位に選ばれ、私たちも改めてそのニーズに気づいたんです」と栃木市住宅課長の

風情ある町並みに利便性、自然のバランスがいい

大野和久さんは語る。データもしっかり把握しており、今年度の移住者のうち40歳未満が73%、50歳未満まで広げても88%なのだとか。40代の子育て世代も少なくないので、シニアより若い世代の注目度が高いことは間違いない。近年の古民家ブームと同様、古い建造物に興味を持つ若者が増えているのかもしれない。1市5町が合併して誕生した地方都市なので、中心部は利便性に恵まれているが、郊外は農地や里山が豊富。そのバランスのよさも、人気の背景にありそうだ。

ただ、子育て世代には仕事という現実的な問題もある。栃木市は16万都市なので、ぜいたくを言わなければ仕事は見つかるが、東京や宇都宮などと比べれば条件は悪い。市はそれも折り込み済みで、東京などへ通勤する人の定住支援にも力を入れている。



2017年、18年と「若者世代が住みたい田舎」で第1位とランキング上位常連の栃木市が、今年には「子育て世代が住みたい田舎」の第1位になった。総合第2位などほかの部門でも6位以内という圧倒的な実力の理由は何なのか、現地を探った。

文/山本典 写真/鈴木加寿彦

子育て支援がライフワークの女性市長でよりきめ細かな政策を実施

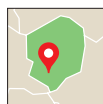
大きなまち

第7回「住みたい田舎」ベストランキング! 子育て世代が住みたい田舎 第1位 栃木県 栃木市

アンケート結果

子育て部門	1位
若者部門	2位
シニア部門	3位
自然部門	6位
総合部門	2位

子育て56点+ (子育て移住者数÷人口×1000)+ (総合78点×0.1)=65.65点



面積 331.50km²
人口 16万1460人
(2018年11月末現在)
平均気温 15.1℃

アクセス 東武鉄道の特急で、東京・浅草駅から栃木駅まで約65分。車は東北自動車道川口JCTから栃木ICまで約45分。



↑市内には公立の保育園だけでも11カ所あり、7カ所は一時預かりも。すべて生後6カ月からの0歳児保育を実施している。
↓保育園はどこも園庭が広々としており、子どもたちが元気に走り回っている。



↑かつては江戸との舟運で栄えた歴史を持ち、巴波川(うずまがわ)沿いに豪商の建物が現存する。



↑県立自然公園の太平山からは栃木市の街並みと関東平野、遠くは富士山やスカイツリーも望める。

移住者レポート

くどう ゆう **工藤 裕さん** ●34歳 ともみ **知美さん** ●34歳
けん **健くん** ●9歳 ふうた **颯太くん** ●7歳

工藤さん夫妻は栃木市の出身で、2018年4月に東京都調布市からUターン。裕さんは東武鉄道とJRを乗り継いで、池袋の職場に通勤している。知美さんも市内で飲食業のパートを見つけた。

利用した支援制度

- IJU補助金(新築)
- 若者世代加算
- 子ども加算
- 市外通勤者加算



学校も公園も近くて便利！栃木暮らしを楽しんでいます！

「2階建ての家を新築しました」と工藤さん一家。小学校へは歩いて通学している。

大川秀子 栃木市長より 受賞メッセージ



子育てと仕事が両立できる まちづくりを 目指しています！

19年間の市議を経て2018年4月に市長に就任した私は、一貫して子育てで支援をライフワークにしてきました。ですから、この受賞は本当に嬉しいです。子育てと仕事が両立できるよう、これまで延長保育や多世代家族に対する支援などに取り組んできました。人口10万人以上の都市では例がない給食費無料化を目指しています。



↑誰でも自由に遊ぶおもちゃが500種類以上ある「おもちゃ図書館」。ママ子どもたちの交流の場にもなっている。



↑ママづくりや子育てに関する情報交換ができる「TOCHICO(とちこ)サロン」には、こんなに大勢の親子が集まってくる。



↑「妊娠期～18歳までの子育ての相談に乗っています」とすこやか子育て相談室の原啓子さん。



↑自然に囲まれた公園には遊具がいっぱい。子育て環境に恵まれているの是一目瞭然だ。

栃木市の ココがすごい！

驚きの社会増500人

移住補助金は家の新築で30万円、中古取得で20万円、40歳未満で10万円加算、40歳以上50歳未満で5万円加算、18歳未満の子ども1人につき10万円加算。こうした施策が功を奏し、年間500人の社会増を達成している。

アクセスに恵まれている

都心まで60～90分前後で、十分に通勤圏。東京での仕事を続けながら自然のなかで暮らしたいと望む人に応えるため、私鉄の特急料金を最大月1万円助成したり、移住補助金も市外通勤者に対して5万円の勤労者加算を実施している。

空き家バンクが充実

2014年に開設した空き家バンクは、成約実績が197件。現在の登録物件も売買で105件、賃貸で11件と圧倒的に多い。また、空き家バンクリフォーム補助金も20万円以上の工事費の半額で、最大50万円を支給している。

「下の子が小学校に入るタイミングで、故郷に戻ることを決めました。この地域には実家があるので、両方のおじいちゃん、おばあちゃんには助けられています。近所の人も情報交換できるようになりました」と話すのは、2018年4月に東京からUターンした工藤知美さん。

徒歩圏内には大型スーパーもホームセンターもあり、生活の不便は感じていないとのこと。

夫の裕さんは東京・池袋まで1時間半かけて通勤しており、生活は安定している。だから34歳の若さでマイホームが新築できたのだ。市からは新築+若者世代加算+子ども加算+市外通勤者加算で計65万円の移住補助

池袋まで電車で通勤
スーパーは徒歩圏内！



お試し住宅

市内には2カ所のお試し住宅がある。「IJUテラス 蔵人館」は江戸時代の見世蔵と土蔵を改修した、全国でも珍しいカフェ併設の移住体験宿泊施設。利用料は1泊2000円、月3万円。利用中の白井さんは、「蔵のましが気に入り、空き家バンクで中古を手に入れました」とのこと。



金を受給。「まだ何に使うか決めていないけど、本当に助かります」と笑顔で話す。

広いグラウンドでサッカーボールを蹴る2人の息子たち、もうすっかり栃木の子どもだ。

「大きなまち」 5部門ランキング

自然の恵み部門

点数の出し方

自然の恵みに関連したアンケート37項目の点数
+移住者人口の割合(移住者の合計人数÷人口×100)



1位	鳥取県 鳥取市	とっとりし	35.12点
2位	長野県 飯田市	いだし	32.01点
3位	静岡県 浜松市	はまつし	31.00点
4位	宮崎県 延岡市	のべおかし	30.05点
5位	愛媛県 西条市	さいじょうし	30.02点
6位	栃木県 栃木市	とちぎし	28.22点
7位	山形県 鶴岡市	つるおかし	28.01点
8位	山口県 下関市	しもせきし	28.01点
9位	愛知県 豊田市	とよたし	28.01点
10位	鹿児島県 鹿屋市	かのやし	28.00点

総合部門

点数の出し方

総合アンケート全89項目の点数
+移住者人口の割合(①移住者の合計人数÷人口×1000)



1位	鳥取県 鳥取市	とっとりし	82.26点
2位	栃木県 栃木市	とちぎし	80.27点
3位	静岡県 静岡市	しずおかし	80.02点
4位	福岡県 北九州市	きたきゅうしゅうし	76.68点
5位	秋田県 秋田市	あきたし	75.35点
6位	長野県 飯田市	いだし	75.18点
7位	長野県 長野市	ながのし	75.06点
8位	宮崎県 延岡市	のべおかし	73.50点
9位	愛知県 豊田市	とよたし	73.10点
10位	山形県 酒田市	さかたし	73.03点

子育て世代が住みたい田舎部門

点数の出し方

子育て世代が住みたい田舎アンケート64項目の点数
+移住者人口の割合(子育て世代の移住者数÷人口×1000)
+(総合アンケート点数×0.1)



1位	栃木県 栃木市	とちぎし	65.65点
2位	鳥取県 鳥取市	とっとりし	62.47点
3位	宮崎県 延岡市	のべおかし	58.66点
4位	山形県 鶴岡市	つるおかし	58.22点
5位	福岡県 北九州市	きたきゅうしゅうし	57.69点
6位	愛知県 豊田市	とよたし	57.61点
7位	岡山県 津山市	つやまし	56.55点
8位	山形県 酒田市	さかたし	56.30点
9位	栃木県 小山市	おやまし	55.80点
10位	長野県 長野市	ながのし	55.50点

若者世代が住みたい田舎部門

点数の出し方

若者世代が住みたい田舎アンケート34項目の点数
+移住者人口の割合(10代・20代・30代の単身の移住者数
÷人口×1000) + (総合アンケート点数×0.1)



1位	鳥取県 鳥取市	とっとりし	34.68点
2位	栃木県 栃木市	とちぎし	33.85点
3位	長野県 飯田市	いだし	31.50点
4位	宮崎県 延岡市	のべおかし	31.33点
5位	愛媛県 西条市	さいじょうし	31.22点
6位	福岡県 北九州市	きたきゅうしゅうし	30.60点
7位	静岡県 浜松市	はまつし	30.50点
8位	山形県 酒田市	さかたし	30.32点
9位	山形県 鶴岡市	つるおかし	30.22点
10位	山口県 山口市	やまぐちし	30.22点

シニア世代が住みたい田舎部門

点数の出し方

シニア世代が住みたい田舎アンケート29項目の点数
+移住者人口の割合(シニア世代の移住者数÷人口×1000)
+(総合アンケート点数×0.1)



1位	福岡県 北九州市	きたきゅうしゅうし	35.66点
2位	山形県 酒田市	さかたし	35.30点
3位	栃木県 栃木市	とちぎし	35.07点
4位	秋田県 秋田市	あきたし	34.54点
5位	愛知県 豊田市	とよたし	34.35点
6位	鳥取県 鳥取市	とっとりし	34.23点
7位	山口県 山口市	やまぐちし	34.22点
8位	宮崎県 延岡市	のべおかし	33.40点
9位	静岡県 静岡市	しずおかし	33.00点
10位	新潟県 新潟市	にいがたし	32.30点

Pick Up

2018年度の 空き家バンク成約数が多い自治体 (2018年10月末現在)

1位	栃木県 栃木市	とちぎし	売 50	賃 12	計 62
2位	大分県 宇佐市	うさし	売 15	賃 27	計 42
3位	香川県 三豊市	みとよし	売 31	賃 7	計 38
4位	静岡県 小山市	おやまちょう	売 22	賃 11	計 33
5位	新潟県 妙高市	みょうこうし	売 24	賃 5	計 29
5位	島根県 雲南市	うんなんし	売 17	賃 12	計 29

お問い合わせ

栃木市 都市整備部 住宅課 定住促進係

☎0282-21-2452・2453

<http://www.tochigi-akiya.jp/>



栃木市マスコット
キャラクターとち介